

書 架 便 り

2022.02.02 川越高校図書館

☆☆☆ 本を読むなら ☆☆☆ 1月に新しく入った本を紹介します ☆☆☆



挑戦—常識のブレーキをはずせ 山中伸弥 藤井聡太 講談社

山中教授と将棋の藤井聡太さんの対談本です。研究者と棋士。分野は異なるが、過酷な競争のなか最前線で前人未到の挑戦を続ける二人。彼らの日常の準備、学び方、メンタルの持ち方、AI との向き合い方など。藤井さんはほぼ年代ですよね。

違うフィールドの第一線にいますが、年齢の違いはあれど AI の話が共通しています。AI は常識に縛られることがないので、AI をうまく使うことで新たな発見ができたり、新たに有用なものが生み出せたりするのではないかと、という山中教授の指摘がとても興味深い。日々努力を続けるみなさんへ贈るメッセージとして読めるものです。

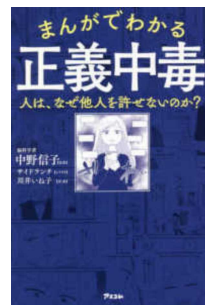


学校に行けなかった中学生が漫画家になるまで 月本千景 中央公論新社

起立性調節障害は、程度の差はあれ、思春期の子ども 10 人に 1 人がかかる病。目に見えないため、診断がつくまでが遠く、やっと判って安堵する。

家族や友人・先生など周囲への感謝、「皆と違う」ことへの不安、希望を持つことの大切さ、さまざまな感情に気づき成長していく。

発症時中学生、どうやって高校に、更に大学にも行きたい、さて。今漫画家として一応は自立、同じ病気で苦しんでいる人は勿論病について知らない人も引き込まれます。



まんがでわかる正義中毒 中野信子 監修 アスコム

SNS いじめ、炎上、ハラスメント、誹謗中傷。「正義中毒」が起きる仕組みを脳科学で解き明かします。

他人を許せない人の脳で起きていることとは。人格攻撃と議論の違いは。正義中毒を乗り越えるカギは「メタ認知」らしい。って何？

自分にも他人にも「一貫性」を求めないでゆる〜く。



OH! ざわつくおにぎり おにぎり劇場 小学館

見て楽しい。作り方もあるけど、造形の才能が要るんじゃないかな。うちの子シリーズはわんこやにゃんこが沢山で、多分似てるんだろうけど、まあ大体でもご愛敬かな。

歴史上の人物や音楽家のおにぎりが、見て誰かがすぐ分かりますよ、凄い。

クラス別貸出冊数 埼玉県立川越高等学校 2021.12.01 ~ 2021.12.31

	組	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組	I組	合計
1 学年	0	0	10	16	0	0	0	12	10	21	69
2 学年	0	8	7	0	7	1	14	1	3	9	50
3 学年	0	0	0	4	0	0	19	0	0	2	25
職員卒業生	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65
合 計	65	8	17	20	7	1	33	13	13	32	209

駿台の間「GAKKOU の並び替えで出来る 360 の文字列を辞書式に並べた時 100 番目の文字列は?」答は図書館へ



クジラのおなかに入ったら 松田純佳 ナツメ社
ウミガメは 100 キロ沖で恋をする 菅沼弘行 方丈社
魚はなぜ減った？見えない真犯人を追う山室真澄つり人社

ピノキオのゼペットじいさんではありません。解体し、胃の内容物を見る。「海獣学者、クジラを解剖する」ではストランディング解明のため解剖し骨格標本作成、こちらは鯨類の食生環境を調査。地球の気候変化や汚染が分かる。

「ウミガメは〜」はタイトルとは逆に、ウミガメが減った理由、人がウミガメにしてきたことなど耳が痛い。

卵を掘り出し、別途孵化後の放流はその生存可能性を著しく下げる虐待的な行為だそう。ウミガメの保護のために小笠原〜パプアニューギニアまで、広く活動が続けてきた記録と啓発の書です。

「魚はなぜ〜」は宍道湖でウナギやワカサギの漁獲高が減少した理由を探ります。水田で広く使用の「ネオニコチノイド系農薬」。著者はデータを積み重ね、湖に流れ込む水に含まれるこの農薬が水中の食物連鎖を破壊し、激減を招いたという結論を導き出します。そこから、あるべき姿の生態系を取り戻す指針が見えるはず。



スポーツをしない子どもたち 田中充 森田景史 扶桑社新書

皆さんのこと？体力は実際低下しているらしい。「ゲーム派」と「外遊び派」の二極化、スマホの影響？運動部活動の時間の減少、などなど。

「いけないの？」には「よくはないだろう」という返しがあるでしょう、スポーツしないが直で悪いのではなく体力の問題として。

体を動かす喜びをどう伝えるか、課題を挙げて解決策のヒントとなるさまざまな取り組みを紹介する。個人的に大きなお世話なら無視していいけどね。



肉食の終わり ジェイ・リス 原書房

"非動物性食品システム実現へのロードマップ"とあります。

地球環境への多大な負荷、肥満・糖尿病等の要因、劣悪な環境での畜産の現状は確かに注視すべきところですが。

著者の主張として人類はいま肉食の限界に直面している、らしい。

考え方は人によるでしょうから、自分の主張を持ち、他者の考えも知った上で互いに尊重するように出来れば、ですが最終目標は他の人とは相容れない。



なぜ日本の列車は秒刻みで動くのか 荒木文宏 交通新聞社新書

毎日、定時で走る新幹線や通勤電車。その日常の鉄道シーンは、世界的にとっても珍しい。ただタイトルの定時運行だけでなく、150年間の鉄道の進化に着目している。

もとを辿ると狭軌でスタートしたことに原因がある。標準軌採用ならばもっと違っていただかもしれない。輸送量も違い、青函トンネルに三本のレールという無駄もなし。だが明治初期の事情からすると判断に妥当性はあるし、その後の文化と技術を踏まえた上で現在を見ると、国土環境が生んだ騒音・振動対策は先んじているし、最先端と言っているはず。

所々に鉄道愛が垣間見えますが、共感も多いのでは。



まぎわのごはん 藤ノ木優 小学館文庫

病気を抱えた人が通う食堂のお話。自信過剰のため修行先の和食店を追い出された翔太は行き倒れ寸前で「まぎわ」という名の料理店に拾われる。

店主は医師で客は病気を抱えた人ばかり、塩一つまみも気軽には使えない(塩分注意)中で食べる楽しさを提供すべく工夫していく。失敗、叱られ多し(ホール担当は看護師資格あり)。末期がんを患う如月咲良のための料理を最後に、と依頼されるが…。



青山に在り 篠綾子 角川文庫

幕末の川越藩、国家老の息子左京と彼に瓜二つの農民の少年時蔵、彼のいとこのお通の物語。

時蔵には父は居らず母と二人暮らし、二人の出自を疑う武士が没して身辺がきなくさい。

幕末の激動のなか、身分に縛られつつも状況の変化にもぶれない若さが描かれています。

架空の人物設定ですが、川越藩士の末裔ですか。